



日本プライマリ・ケア連合学会
関東甲信越ブロック支部 活動報告

発行人
関東甲信越ブロック支部長
西村 真紀

ニュースレター No. 8 (2014. 12)

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 ニュースレター(2014/12)

2014年5月より関東甲信越ブロックも新体制となっておりますが、現在各都県支部の活動など少しずつ皆様を支援できる体制を整理しております。今回は第3回地方会を中心に報告いたします。

1. 第3回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会のご報告

神奈川支部会長 松田 隆秀
同 幹事 土田 知也



2014年11月30日、神奈川県総合医療会館において、第3回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会が開催された。テーマは「みんなで近未来の地域医療を考える」であり、教育講演、ワークショップ、ハンズオンセミナー、シンポジウム、新しい試みとしてラウンドテーブル・ディスカッションを企画した。

当日は晴天にも恵まれ、医師、歯科医師、薬剤師が303名、看護師、ソーシャルワーカーが32名、学生10名の合計343名が参加された。

教育講演Ⅰでは、鶴見大学歯学部臨床教授 武内博郎先生（武内歯科医院）に「歯科発ヘルシーライフプロモーションと抗加齢」というテーマで具体的な歯科からの健康づくりについて解説頂いた。教育講演Ⅱでは、聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科教授 田中逸先生に「プライマリ・ケア 糖尿病実践教室」というテーマで糖尿病診療のポイントを生活習慣改善アドバイスや薬物の段階的考え方について中心に解説頂いた。教育講演Ⅲでは梶原診療所在宅サポートセンター 平原佐斗司先生による「非がん疾患の在宅緩和ケア」というテーマで代表的な非がん疾患をとりあげ、終末期の苦痛の緩和、意思決定の支援について解説頂いた。特別講演ではNPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長の山口郁子様に「患者と医療者が協働する未来の地域医療へ」というテーマで今後の医療の課題と期待について、患者の立場からの発言を頂いた。

第2会場は円卓を囲む形でラウンドテーブル・ディスカッションが行われた。浜松医科大学医学部医療法学教授 大磯義一郎先生による「医療法学のすすめ 糖尿病関連訴訟からみる診療上の注意点」はDKAの訴訟問題をディスカッションを行いながら学習する方式であった。横浜市立大学総合診療科長谷川修先生、同地域連携相談部吉留美佐子様による「急性期病院退院後を患者の視点から見る」では立場の違う5名の講演後、参加者の発言も合わせて急性期退院先について議論された。

第3会場では北里大学東洋医学総合医学研究所副センター長伊藤剛先生による「プライマリ・ケアに東洋医学を応用してみよう」では実際に診察を体験することで参加者より好評のセミナーとなった。亀田ファミリークリニック館山院長岡田唯男先生による「2025年問題：多死・高齢社会にどう向き合うか」では講義とワーク形式で行われ、今後の問題点について深く考えることができた。

基調講演では日本プライマリ・ケア連合学会理事長丸山泉先生より「かかりつけ医と家庭医療専門医の協働」についてOECDの提言を中心に2017年からの専門医制度改定も含め講演頂いた。それに続けて「近未来の地域医療へ向けた取り組み」というテーマで神奈川県歯科医師会常任理事の鴨志田義功先生、神奈川県薬剤師会理事の小宮賢一先生、神奈川県看護協会より神田真理恵様、神奈川県介護支援専門員教会顧問の斎藤学先生、神奈川県医師会理事の玉城嘉和先生、日本プライマリ・ケア連合学会理事の大橋博樹先生、指定発言として同学会医学生・若手医師支援委員会の遠井敬大先生よりそれぞれ

れの立場から近未来に向けた課題と取組について発表して頂いた。その後登壇され、今後の教育、連携についてそれぞれ発言を頂いた。

上記プログラムに加え指導医講習会も開催され、多くの参加者が横浜へ足を運ばれた。本日はテーマである近未来の地域医療を考える重要性を深く認識した1日であった。

2. 関東甲信越ブロック議員総会報告

(議事録と規約は別途ホームページに掲載しますので詳しくはそちらをご覧ください)

日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック支部平成26年度第二回議員総会が2014年11月30日神奈川県総合医療会館にて開催されました。

【報告事項】

・都県代表の紹介：新代表 長野 古川善行先生、千葉県は設立準備委員会が設立。

【討議事項】

①事務業務委託およびそれに伴う規約の改訂について

相見積もり依頼先:あゆみコーポレーションと株式会社 アイ・エス・エス。アイ・エス・エスで決定した。それに伴い規約を変更した。：第34条(事務局)2 本会の事務局は、構成地域内に置く→本会の事務局は(株式会社 アイ・エス・エス)に置く

② H26 年度修正予算案

事務費を50000円に変更とした。

③ H27 年度予算配分および今後の活動方針について(討議)

都県支部活動活性化のため来年度も都県支部予算10万円で継続。地方会の予算が足りないことが報告され予算を増やす方向となった。横断的活動については継続討議とする。今後の収入増加策については代議員数の増加を目指すこととなった。

⑥ 平成27年度地方会について：新潟大学・吉嶺先生よりご挨拶があった。会場は新潟大学で行う予定。

会期：2015年11月29日(日)、会場：新潟医療人育成センター会長 鈴木榮一先生 新潟大学歯学部総合病院長

3. 県支部報告

【千葉県プライマリ・ケア研究会報告】東武塚田クリニック 林直樹

千葉県プライマリ・ケア研究会(代表世話人池崎良三)は、旧日本プライマリ・ケア学会の創設母体「実地医家のための会」設立メンバーである渡辺武先生のご尽力で千葉県プライマリ・ケア研究会が創設され例会を中心に千葉県プライマリ・ケア医の集まりとして活動しています。最近では千葉県医師会医学会の分科会として例会を行っており今年も第20回千葉県プライマリ・ケア研究会学術集会を平成26年11月3日(祝・月)に千葉県医師会館で行われました。メインテーマ「在宅医療の課題」；基調講演「在宅医療の課題—多職種連携の観点から—」を和座一弘先生(わざクリニック院長)が総論的内容と豊富な臨床経験に基づく話で大変示唆に富む講演をされた。その後シンポジウムに移り、歯科医飯島美智子先生(小貫歯科医院院長)、薬剤師高崎潔子先生(株タカサ在宅療養支援室室長)、訪問看護師山崎則子先生(訪問看護ステーション加曾利所長)、訪問介護員島美里先生(シャローム若葉)、地域包括支援センター赤間美恵子先生(千葉市あんしんケアセンター桜木所長)の各職域から実践事例を中心に講演、その後シンポジスト、参加者で活発なディスカッションが行われた。当日は千葉県医師会医学会第15回学術大会の一環として開催され、午前中は千葉県プライマリ・ケア研究会の他、各分科会が行われた。分科会は内科医会、外科医会、小児科医会、整形外科医会、産婦人科医会、精神科医会、耳鼻咽喉科医会、眼科医会、皮膚科医会、泌尿器科医会、リウマチ科医会がありそれぞれ活発な学術学会が開催された。午後は県民公開講座が開催され、日本医師会常任理事石川広己先生が「みんなでつくろう・・・地域包括ケアの実現」の講演をされた。これから高齢者が多くなる中、疾病を持ちながらも生活を豊かにしていくこと—そのために医師会は「医療はまち作り」を合言葉に地域の人々と医療のみでなく介護と連携し、支え合う社会を皆で作っていききたいと講演され、

参加した県民の皆様も意を同じくして聴いてくださったと実感した。その後県民公開シンポジウムをテーマ「地域で守ろう、子どもの命、大人の命」「食物アレルギーのこどもの命を守ることができること」「脳梗塞最近の治療」「知っておきたいロコモのこと」「心筋梗塞と救命の連鎖～千葉市を日本のシアトルに」など最近の健康・医療テーマを各演者の講演しその後県民と意見交換がなされ大変有意義な一日を終えました。

日本プライマリ・ケア連合学会千葉県支部設立準備委員会(仮)について11月3日(祝・月)千葉県プライマリ・ケア研究会学術集會に先立ち世話人会、総會が開催され、日本プライマリ・ケア連合学会の県支部について議題が出された。千葉県プライマリ・ケア研究会は旧日本プライマリ・ケア学会当時より千葉県でのプライマリ・ケア領域の活動してきているが、日本プライマリ・ケア連合学会に再編されてから県学会員の多くは当會に所属していないなど、會員構成、現況から日本プライマリ・ケア連合学会千葉県支部とするには難しいが、県支部設立に向けて他の動きも不明であること、今後プライマリ・ケア領域は総合診療専門医制度との関連で医師會との連携が必要であり、地域で活動を一層深めていくのに支部活動の充実が不可欠である。そのためまず千葉県プライマリ・ケア研究会内に日本プライマリ・ケア連合学会千葉県支部設立準備委員会(仮)を設け県内学会員に呼びかけていくことが承認された。千葉県會員の皆様には是非とも協働して千葉県支部設立していくことを切望いたします。このことに関しての問い合わせ、御意見は下記までよろしくお願いいたします。

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港 4-1

千葉県プライマリ・ケア研究会 代表世話人池崎良三 世話人林直樹

TEL:043-242-4271(代表) FAX:043-246-3142

E-mail:n-hayashi@tobutsukada.or.jp

【茨城県支部活動報告】

支部定例の学術集會は、今年度も第27回いばらき医療福祉研究集會、第8回いばらき歯科医療フォーラム(主催一社茨城県保険医協會)と共催で実施しました。医療・保健・福祉関係職の441名が参加。実践的な研究発表が多いので、例年、発表終了後に、初めて顔を合わせた方々が疑問を解決しようと熱心に話し合う様子が見られました。学生の学外授業や診療所スタッフの教育研修にも活用され好評です。

【第27回いばらき医療福祉研究集會】

テーマ「みんなで考えようより良い最期の支え方～エンド オブ ライフ・ケアとは」

【第8回いばらき歯科医療フォーラム】

テーマ「より良く食べるはより良く生きる」

日時：平成26年10月26日(日)9:30～16:30

会場：つくば国際大学(土浦市真鍋6-20-1)

内容：<全体企画>

「認知症の人との関わり方～地域包括支援センターの活動を通して～」土浦市職員70名の参加

<コモンディーズ研究会>

「超高齢社会における医科歯科連携を考える」～高齢者へのB P製剤投与。医師、歯科医師が激論。

<多職種連携研修會>

「最期に向けた支え方」165名が討論に参加した。

<研究発表>

4分科會、各職種50題、(3分科會は口演、1分科會はポスター)

<その他>

リハビリテーション相談會、ランチョンセミナー「症例から考えるアルツハイマー認知症」

菜の花診療所 北村ゆり先生

【第29回県南医療福祉交流会】を後援・参加しました。

日時：平成26年6月28日(土)「高齢社会の地域医療・地域包括ケア」～講師・古田達之氏～

【保健・医療・福祉に関する勉強会】(年6回開催)

会場：筑波大学総合研究棟 公開講義室、無料

★印：日本プライマリ・ケア連合学会の専門医・認定医2単位、認定薬剤師1単位

<第170回 テーマ「転倒リスクと介護予防教室」>

平成26年5月20日(火) 講師・高田 祐氏(アール医療福祉専門学校)

<第171回 テーマ「要介護認定：認定調査と主治医意見書の役割」★>

平成26年6月17日(火) 講師・奥野純子氏(筑波大学非常勤講師)

<第172回 テーマ「在宅における polypharmacy と不適切な薬剤投与」★>

平成26年7月28日(月) 講師・浜野 淳氏(筑波大学医学医療系)

<第173回 テーマ「10代の事例を通して考える学校保健」★>

平成26年10月21日(火) 講師・平野千秋氏(きぬ医師会病院小児科)

○第174回は12月3日、第175回は平成27年2月に開催予定です。



来年6月、第6回連合学会学術集会(つくば市)について

過去、平成11年第22回日本プライマリ・ケア学会学術集会では、2,000人以上の参加者でした(テーマ「21世紀に求められる保健・医療・福祉」、大会長は故・土屋滋筑波大学名誉教授)。当時、JR常磐線の特急ひたち号や、東京駅～つくばセンター直通の高速バス利用により、筑波大学開学の頃をご存じの参加者の方から「陸の孤島と言われた筑波大学も、ずいぶん近くなった」と驚かれたものです。現在は、つくばエクスプレスが秋葉原～つくばを最短45分で結んでいます。今回はさまざまな職種、年代の4,000人をこえる参加者が想定されます。県支部一同、前野哲博大会長を先頭に熱気みなぎる会場運営を目指しています。会場周辺には官民あわせて多数の研究所があり、医療・保健・福祉分野から自然科学、宇宙開発など幅広く研究成果を公開しています。ちょっと足を伸ばせば、筑波山から都内の高層建築を眺めることもできます。ぜひ、今から来年度の研修予定を会期2日+α確保して、つくば市に足をお運びください。皆様のお越しをお待ちしています。

【長野県支部活動報告】

長野県支部がスタートしました。「共学、共育、共生」をモットーにしています。長い間実地医療にいそしんで来られた経験豊かな方々に学び、そして来るべき総合診療医を目指し先達の後を継ぐ方々をサポートする地域に住む医療関係者の会です。文献考察型や自己PR型の方々より地道に経験を重ね、少しでも客観視できる結果に導いておられる方々こそ脚光を浴びて欲しいと願っています。今後は医療関係者に広く入会を勧誘して安定財源を確保し、全員参加による健全な運営につとめます。来春の設立総会、そして第一回学術集会を経て本格的な活動に入ります。関ブロ及び学会には適切なアドバイスと財政支援を期待しています。

長野県支部 支部長 古川善行(H1194)

【埼玉県支部の現状】

埼玉県も広域なので、なかなか全域、全領域の会員に役立つ企画、活動については力が及ばず不行き届きで恐縮です。昨年までは3年連続して、多職種連携をテーマにした勉強会を続け、世話人の方々のご尽力、発表者のご協力と参加者の支持のおかげで、有意義な会の運営ができています。今後は参加者層の拡大と、会から地域へのメッセージ発信が課題と思っています。

今年は12月4日(木)19時より、大宮ソニックの国際会議場において、定例の勉強会を開催しました。

昨年来、我が国の医療者教育が課題としてクローズアップされましたが、近年に限らず大きなテーマとして従来研究さ

れてきた領域です。今回のテーマは医療教育に正面から取り組んできた講師を招き、「医療者としてのプロフェッショナルリズム論」についての基調講演を信州大学特任教授、市川家國先生（医療倫理学）に、次いで2題の教育講演を「医療教育の軌跡と展望」として前東海大学内科教授、阿部直先生に、「新しい臨床教育の実践と課題」について東京慈恵会医科大学教授、臨床研修センター長、川村哲也先生にと、基本論から教育現場での新たな試みまでにわたる発表と検討をお願いしました。県内の会員はもとより、多職種にわたってオープンな参加も呼び掛けたところ、県立埼玉大学、埼玉医科大学など教育機関などからも含めて多職種の100名を超える参加があり、学会からは関東甲信支部長の西村真紀先生のご参加をいただき、熱のこもった意義深い時間を過ごしました。（写真）

当日の抄録資料をご希望でしたら、自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科の石井彰（事務局担当）までFax連絡ください。（FAX 048-648-5188）

埼玉県支部 代表世話人 中根晴幸 明医研ハーモニークリニック
〒336-0918 埼玉県さいたま市緑区3-16-6 Tel048-875-7888 Fax 048-875-7885
e-mail maykennakane@ray.ocn.ne.jp

4. お知らせ

次回代議員、理事、監事の議員総会は6月13日（土）昼 つくば学術集會中に行います。

関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。

掲載希望の方は以下メールアドレスまでご連絡ください。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp
